

お茶の時間

散歩でグーグル検索

柴田 幹雄 陸自75

スマホのグーグル検索で調べたい言葉を入れる枠に四角のマークがある。これをタッチするとカメラになり、写したものの名前が出る。例えば車を写すとデーターベースにあるその車の写真と車種・名称・年式などが表示される。

最近散歩や通勤途上の道端で見かける花の名前を調べて楽しんでる。花などは判断が難しいらしく、AIが判断し、たぶんこれというものと次の候補の写真と名前が出る。私が写した、つまりAIにとっては初めて見る画像で、データーベースの情報に突き合わせ判断するのだろう。すごい進歩である。道端で見つけたピンクの可憐な花を調べてみたら、「ユウゲシヨウ」と「ヒルサキツキミノソウ」が表示された。両者ともよく似ているが、正解は「ヒルサキツキミノソウ」だった。

ただ「ユウゲシヨウ」の名前に興味を引かれ調べるとやはり「夕化粧」と書く。なんとも風雅な名前である。漢字で名前を知ると覚えやすいのだが、樹木や魚の名前は読めない漢字ばかり。

新聞や図鑑で動植物の名前をカタカナ表記にするのは合理的だと思う一方、漢字でどう書くか知るのには面白い。「ホトケノザ」は「仏の座」、花のすぐ下の葉が、釈迦の座る蓮華座に似ていることからこの和名が付いた。紫色のすみれより小さな花をつける「イヌノフグリ」は「犬の陰囊」。実が犬の睾丸に似ているから。「オミナエシ」は「女郎花」である。

もちろんグーグルで撮影して名前を調べるとカタカナで、外来種などは英文で出てくる。なかなか覚えられない。家内と散歩しながら花を写して「ランタナというんだ」と名前を言いつて歩き、次の花を調べて、ふと「あれ、さっきの花なんだった？」と聞いても二人とも覚えていない。まあ3歩以上歩いたから仕方がないとまた戻って調べなおすのも楽しい花探索散歩である。グーグル検索のおかげでただの散歩も新しい知識が増える。

ただよその家の庭の花にスマホカメラを向けて要らぬ誤解を招かぬようご用心。

戯れに家内を写して検索した。美魔女と出るか鬼婆と出るかはらはらしたが、着ていた服のブランド名が出た。グーグルAIもめんどことは避ける知恵があるらしい。